

圻川、葛西用水で越水

326棟が床上浸水

八月四日から五日早朝にかけて、台風十号くずれの温帯低気圧が関東、東北地方に集中的な大雨を降らせ、八潮市では市域の約四〇%が水につかりました。
市全体では床上浸水した住家が三百二十六棟、床下浸水が一千四十九棟もあり、道路冠水三十五カ所、冠水した田、畑は十三haにのぼりました。

降雨量二百三十九ミリ

四日未明から五日早朝にかけて、八潮市役所屋上で観測した雨量は二百三十九ミリ。これは昭和五十五年に観測を始めてから最大の雨量でした。今回の雨の降り方を時間を追って再現すると、まさに集中豪雨であったことが分かります。まず四日の昼に降り続いた雨は



圻川が越水。木柵だけが境を示す。(5日午前4時)

避難所を設置

市は四日午後、市役所内に災害対策本部を設置し、中川、綾瀬川、圻川など、河川の監視を強めるとともに、市内各所の状況や大雨の情報を集めました。そして、市内の雨水を排除するために全ての排水ポンプをフル稼働。また越水した葛西用水には土のうを積み、出水が激しかった地区の六小と十小には避難所を設けました。



「ここまで水が」と示した水位は床上30cm(柳之宮)

「下水路、整備して！」

被害の最も大きかったのは西袋、圻、古新田の三地区(「台風10号による冠水図」参照)。浸水した世

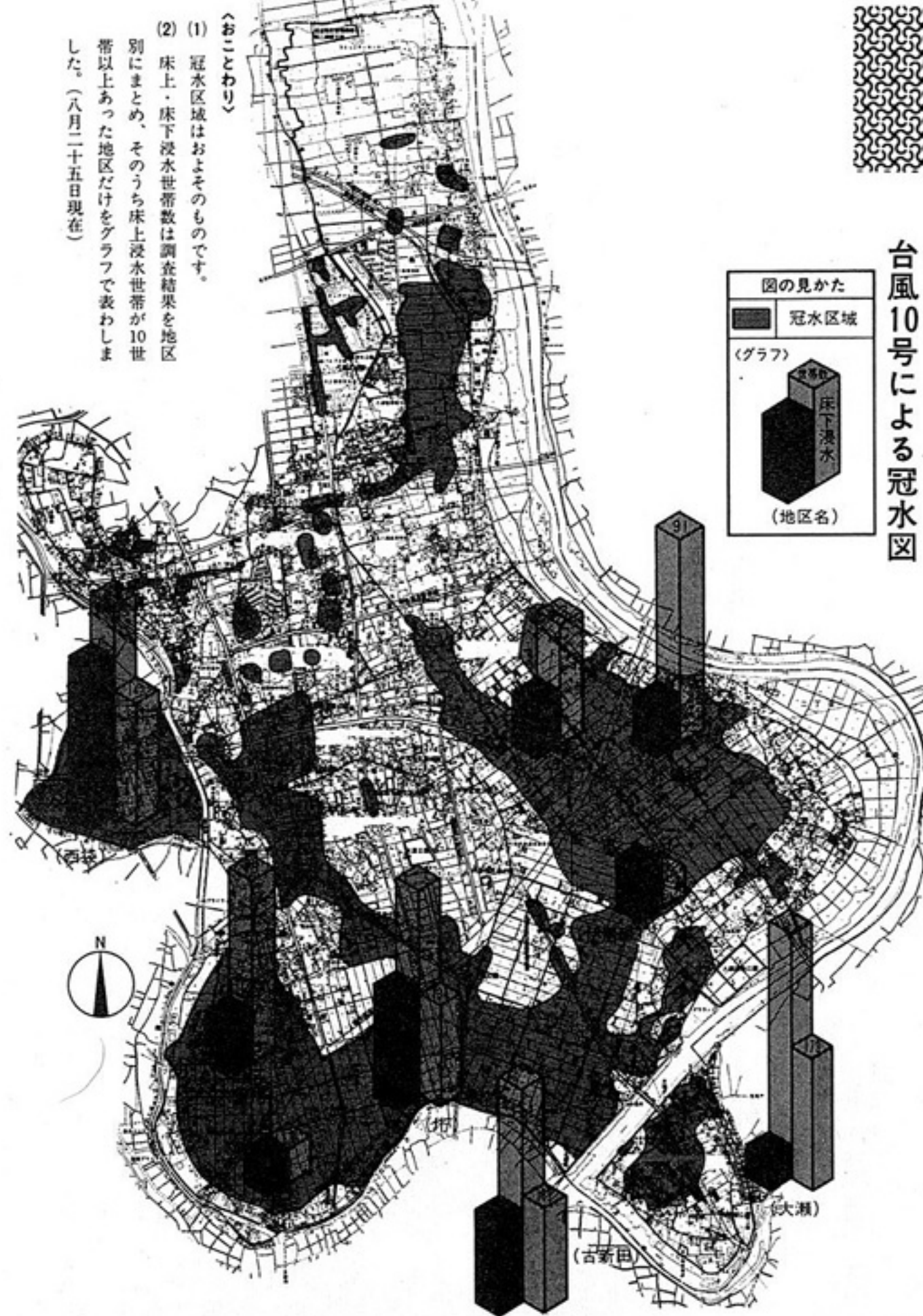
排水ポンプを設置

大雨の後は真夏の太陽が照りつけ、炎天下での跡かたづけは大仕事でした。「午前中で仕事を切りあげて」来たという会社員は夫婦で水につかった家財道具を家から外に運び出すのおおわらわ。

その中で、水ひきが早かったのが救いでした。市では市内各地区の衛生委員を通して防疫のスミチオン粉剤一・五、を被害世帯に配り、圻と古新田の未整備水路には消毒薬を散布しました。また、今回の水害では初めて畳など、水につかって使えなくなった家財を回収しました。

そして最も急を要したのが便槽に貯まった雨水のくみ取り作業。十四台のバキュームカーが五日間で二カ所を処理しました。柳之宮では綾瀬川に排水するポンプを今年度設置すると共に、西袋ポンプ場の建設を急ぎ、圻川では排水機場の能力アップを県に強く働きかけていきます。

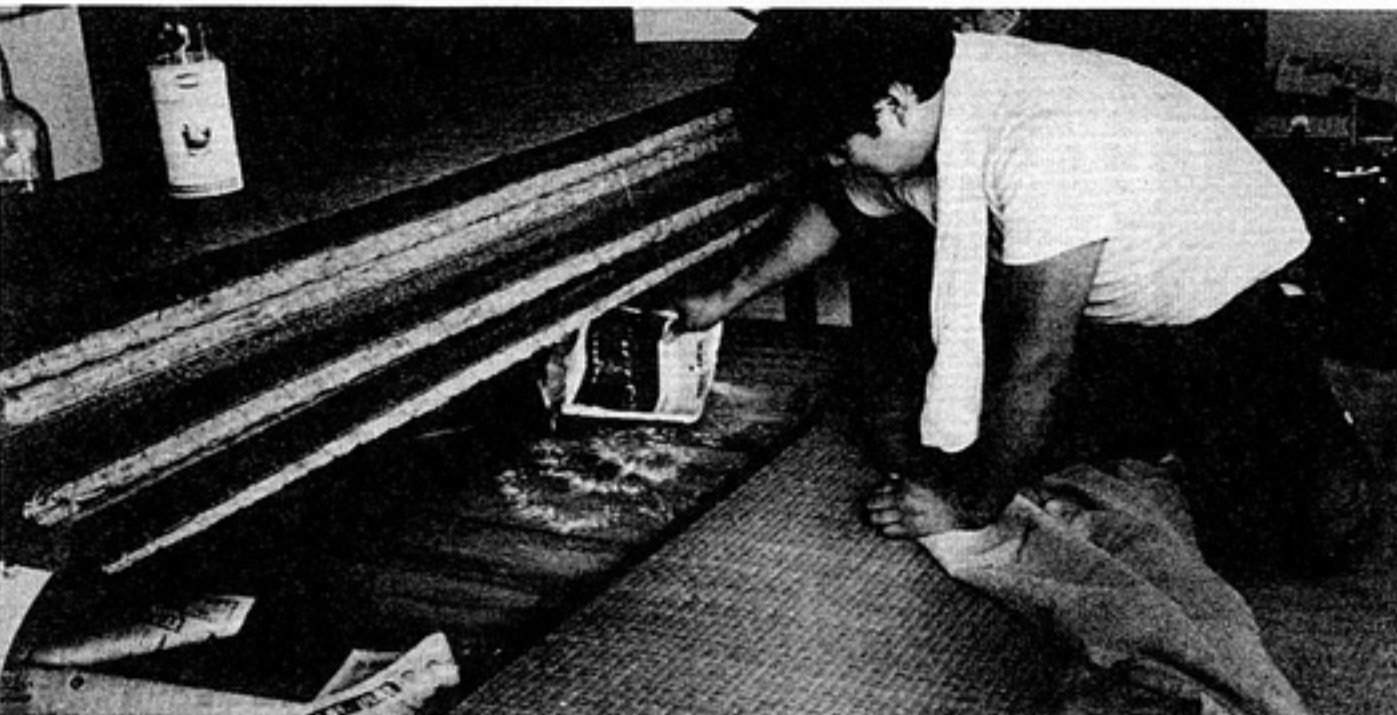
台風10号による冠水図



へおこわり

(1) 冠水区域はおよそのものです。

(2) 床上・床下浸水世帯数は調査結果を地区別にまとめ、そのうち床上浸水世帯が10世帯以上あった地区だけをグラフで表わしました。(八月二十五日現在)



台風一過、後かたづけが最優先。床には防疫薬剤をまく。(西袋)